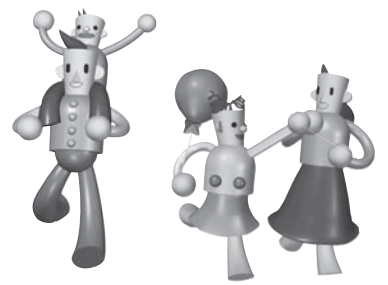


隣保館だより

編集 下榎隣保館 〒689-4526 日野町下榎157番地1
電話：72-1191 (FAX 兼)
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp



たくましく 羽ばたけ 榎の実学習会閉講式



◀なかまづくりで雪あそび

▶6年生には、1年生の時にもらった手形を贈りました



2月17日、下榎集会所で小学生、中学生の榎の実学習会の閉講式を開きました。小学生15人と中学生13人、小中学校の教職員、教育委員会、保護者が参加して、学習成果の発表と、1年間欠席の表彰を行い、表彰状と記念品を贈りました。式の中で山本教育長は、「たくさんの人と出会い、交流の場を広げて、ここで学んだことを糧に、生活に生かして頑張ってほしい」と激励しました。中学3年生は学習会を振り

返って、学習会の意味や学んだことについて作文発表をしました。小学校、中学校と9年間の学習会で学んだことを、これからの高校生活に生かして、しなやかに、そしてたくましく羽ばたいてほしいと願います。1年間、学習会活動に関わって下さった皆さんに感謝とお礼を申し上げます。

参加された「生涯現役」の本のような90歳目の元気な姿の2人に励まされ、集い、顔を見て笑うことも予防の一つになると再確認しました。

認知症になる要因の1位は高齢化によるもので、生活に支障が出ると心配になり、不安が多いと症状が進みやすくなるそうです。パネルを使った分かりやすい話、日ごろから少しでも出来るようなことを手伝えるなど認知症の垣根を低くして、地域で支えあう仕組みづくりが大切だと感じました。

【集会参加報告】

第30回鳥取県連女性集会に参加して

中原美代野

記念講演として、近畿大学人権問題研究所教授の岡田先生を迎え、土地に対する根深い差別の背景を知らされました。

地方から都会方面へ就職・入学の場合、不動産屋に必ず問い合わせがある。住居先は同和地区か否か？また、マンション建設を検討するエリアに同和地区やその周辺をさける、近くだと、部落と見なされる不安を持つ一般の人が多いという、驚きのデータが出ていることなど・・・。

そして、30年間の歩みを、活動などスライドや各地協の報告者により学習しました。「今度生まれてきたら、みんなと同じ星の下に生まれたい」一般の友達に打ち明けて抱き合って泣いた高校時代。今も永遠の友である事。「就職、結婚と差別の壁にぶつかった時、一番最初に相談にのってやれる強い母でありたい」など、涙で語る報告者の方にも感動致しました。

部落の環境整備が整った時、説明不足により逆差別用語が生まれました。運動体の力で国から得た同和对策法は、義務教育の教科書の無償、近隣地区の道路・橋・田んぼのほ場整備など共同で恩恵を受けていることなど理解して頂きたいです。

部落差別は元より、女性差別・身体障害者の方などの人権確立の輪が広がっていったのも、運動体ができたならこそその成果だと思えます。

いまだ根強く光の見えない差別と戦い続けなければならない苦しみの方がいる事、わが身に置きかえて考え、ご理解頂きたいです。

「女性が変われば部落が変わる 部落が変われば世の中が変わる」胸に熱い血を感じる女性集会の1日でした。

(平成23年2月6日 於：大山町中山農村環境改善センター)



集まる機会は大切。話が弾む

3月1日、老人憩の家を会場に、今年度最後の「ぼかぼか教室」が開かれ、近隣地区の人も含め、14人の参加がありました。町健康福祉センター職員指導で、タッチパネルを使った物忘れ検査と認知症予防の講話を聞きました。

みんなが集って予防 ぼかぼか教室

人権のまち ひとの

2011年3月

女性の力でまちを変えたい 女性リーダーがまちを元気に

2月20日、鳥取県日野総合事務所で開催された日野郡男女共同参画連絡会「まちを元気にする女性塾」が開かれました。『もう一歩踏み出そう私から つながろうあなたと』と題し、島根県大田市視察研修の報告と自治会での男女共同参画について考える寸劇や意見交換が行われました。



日野郡男女共同参画連絡会
会長 山田玲子さん（日南町）

平成15年に日野郡4町（日南・日野・江府・溝口）の広域で、男女共同参画社会の実現を目指そうと設立された「日野郡男女共同参画連絡会」。平成17年の合併で溝口町が抜け3町となった同会は、よりいっそう統一的な取り組みを推進するため、昨年12月、島根県

大田市に視察研修を実施。地域づくりに女性の力が大きく関わっている事例を学んだ熱い思いを、同会会長の山田玲子さん（日南町）が報告しました。

自ら踏み出そう

山田さんは研修から、「そこに生まれた人も、嫁に来た人も、自分たちの暮らしをどうするのかと考えることが地域づくりに参画する第一歩」と聞き、「自治会の会議に女性が出にくい状況などもあるが、まず、出るという行動に移すことが大切で、住みやすいまちをつくる問題点を見つけて力を磨いていかなければいけないと認識した」と振り返りました。

寸劇を通して考える

研修会では、日野町男女共同参画推進会議の会員で構成する「つくし劇団」が、自治会の女性参画について寸劇を披露。「地域の女性たちは自治会役員になり、住みやすい地域づくりを目指したいと張り切るが、閉鎖的な昔ながらの自治会役員会の中で、果たして、初の女性役員は受け入れられるのか」という物語の中で、役員会は混乱します。時折、笑いを交えた熱演に、会場から大きな拍手が起りました。

参加者らは寸劇を通して、家庭や自治会、個人などの立場で男女共同参画について意見交換を行いました。自分たちでもう一歩踏み出すために、研修で学んだことを地域に持ち帰り行動することを誓いました。皆さんも男女共同参画推進会議の会員になって、活動してみませんか。

自治会への参画を目指し張り切る女性たち



自治会役員会で、女性の役員参画について議論される



～参加者の声～

◆大田市研修報告について

- ▶男女の心の平等は究極の目標。大変な労力が必要。少しずつ訴えかけたい。
- ▶議会では女性の進出が増えてきたが、自治会ではまだ女性の参画は少ないのが現状。出にくい雰囲気がある。手を取り合って、感動していくことが大切だと思った。
- ▶女性が会議に出ることは大変だと思った。女性が出るには、男性が家庭で何かしないといけない。「イクメン」にならないといけないのかも。
- ▶誰もがリーダーにならないといけないが、意見を出すとリーダーにさせられてしまうから敬遠してしまう。

◆寸劇から考えたこと

- ▶他人を思いやること。お互いに尊重し合うことが大切。
- ▶男女共同参画について進んだ地域を参考にしよう。
- ▶自治会などの会議を開く場合に、時間や曜日などの工夫が必要と思う。
- ▶会議などに夫婦で参加すると、夫の変化も見られるのではないかと。できることから助け合うくらいから始めてはどうか。
- ▶地域や家庭などで役割分担を固定化しない。
- ▶女性も勇気を持って発言すべき。会議も、それに耳を貸す姿勢がほしい。